

## 「同志社看護」第5巻の発刊によせて

今年も「同志社看護」をお届けすることができました。これも関係の皆様のお力添えの賜物と心より厚くお礼申し上げます。

「同志社看護」は、看護に関する研究論文だけでなく、日頃の教育実践活動を取りまとめた教育実践研究や報告、あるいは社会貢献活動の成果報告、大学運営に関する内容など、幅広い内容を盛り込んでいきたいと考えております。第5巻には、投稿論文2編、2019年2月に開催の「一期生卒業記念講演」および同年3月の看護学部FD講習会の内容を掲載させていただきました。

一期生卒業記念講演では、元京都大学医学部附属病院看護部長であり、現在岩手医科大学看護学部特任教授および日本看護協会副会長の秋山智弥先生に「看護の未来展望～これからの看護師に求められる力～」というテーマでお話しいただきました。今、看護界が直面している現状をわかりやすく解説、その中で新人看護師としてどう向かっていくのか、ご自身の経験などを盛り込みながら、たくさんのエールを送っていただきました。学生たちは、未来の自分の姿を思い描きながら聞き入っているようでした。

FD研修会では、厚生労働省看護基礎教育検討委員会委員で日本看護学校協議会会長の池西静江先生をお招きして「看護基礎教育のこれから」というテーマでお話しいただきました。現在、看護教育を取り巻く状況に多くの課題がある中、厚生労働省では保健師助産師看護師学校養成所指定規則の5回目の改正に向けて、看護基礎教育検討委員会にて検討が進められ、2019（令和元）年10月にそのまとめが報告されました。この改正は、2022年入学生から適用される予定ですが、そのポイントをいち早くご教示いただきました。少子高齢化、在宅療養への移行、地域包括ケアの充実等の社会情勢をふまえて、看護師の量の拡大から質の確保の時代になってきたこと、それに伴い、今後看護師養成機関では、いかに質の高い看護師を育てるかが問われるということをお話しされ、そのうえで、今後強化すべき看護師の力として、生活を支援する能力、臨床判断能力、多職種と協働する能力、保健指導能力を挙げ、そのためにはどのような看護教育が必要かの実践例を交えながら、熱く語っていただきました。今後、看護教育カリキュラム改正に向けての準備を進めていく中で、今回の研修は看護基礎教育を考える貴重な機会となりました。

最後に、「同志社看護」の発刊は、同志社女子大学看護学会の事業の一環です。教員のみならず、学生達と共に、この看護学部のすばらしい未来をつくりあげていくことへの一つの足跡になることを願っています。

看護学部長 岡山寧子

